

日本顕微鏡歯科学会 第10回学術大会 事後報告

平成 25 年 3 月 30 日(土), 31 日(日)の 2 日間を会期に、日本顕微鏡歯科学会第 10 回学術大会が「**広げよう歯科の目を**」を大会テーマに、一橋大学一橋講堂において開催されました。会場が日本歯科大学生命歯学部から一橋大学一橋講堂に変更になってから 5 か月という短い準備期間ではありましたが、学術大会を滞りなく盛会裡に終了することができましたのも関係各位のお力添えの賜と感謝申し上げます。

本大会の参加者は約 520 名、学術プログラムは特別講演 1 題、基調講演 1 題、シンポジウム 2 題、歯科衛生士セッション 1 題、一般口演 10 題、テーブルクリニック 6 題、ランチョンセミナー 3 題を数え、企業展示 32 社、報道 6 社など多くのご支援により過去最大規模で行うことができました。

【1 日目】

学術大会プログラム初日には、開会式での石井隆資大会実行委員長の挨拶に続き、北村和夫大会長が“**Broaden our outlook: broadening the outlook of dentistry**”の演題で基調講演を行いました。今までの知識を整理し、新しい知識を習得することにより、多角的に見る目を養い、明日からの顕微鏡を用いた歯科治療に生かそうという第 10 回学術大会の趣旨が示されました。



石井隆資大会実行委員長による開会宣言



北村和夫大会長の基調講演

続いて、特別講演では、日本の歯科法医学の発展にご尽力されている日本歯科大学生命歯学部歯科法医学センター教授の都築民幸先生より、「**詳細な検査は誰のために行うか**」「**Whom do you perform the detailed inspection for?**」の演題で、ご講演をいただきました。先生は子ども虐待の防止、対応を中心に活動され、創傷の状況から受傷状況や成傷機序を推定し、これを提示することで、創傷を予防することが可能になると説明され、聴講者は熱心に耳を傾けていました。



都築民幸先生の特別講演

休憩時間には講堂に隣接した企業展示会場で顕微鏡や専用器材・書籍などが数多く展示され多くの参加者で賑わっていました。

1 日目の最終演題となったシンポジウム1は「歯科用CTと顕微鏡を用いた歯科治療」をテーマに、新潟大学口腔健康科学講座 興地隆史教授のオーガナイズのもと、3人のシンポジストをお迎えして行われました。歯内療法分野から寺内吉継先生に「顕微鏡とCTを融合したこれからのエンド処置」、インプラント分野から鈴木真名先生に「正確そして安全なインプラント治療」～CT,そして顕微鏡の融合～、一般歯科治療分野から吉田 格先生に「顕微鏡とCTの融合は一般歯科診療に何をもたらしたか?」をそれぞれご講演いただき、各分野における歯科用CTによる診断で顕微鏡を用いた歯科治療を行った症例の提示がなされ、会場からの活発な質疑に対するディスカッションが繰り広げられました。



シンポジウム1コーディネーターの興地隆史先生



シンポジストの寺内吉継先生



シンポジストの鈴木真名先生



シンポジストの吉田 格先生



シンポジウム1の活発な質疑応答

講演終了後は会場を如水会館に移して 150 名以上の参加者により懇親会が開催されました。大会長、学会長、来賓の日本歯科大学理事長・学長、中原 泉先生のご挨拶に、居合の演武も挟んで大いに盛り上がり、会員同士の親睦を深める楽しい一時となりました。



北村和夫大会長の挨拶



辻本恭久学会長の挨拶



来賓の中原 泉先生のご挨拶



三橋 純副会長の乾杯のご発声



会員同士で親睦を深めあう懇親会



居合の演武

【2日目】

2日目は歯科衛生士セッションとテーブルクリニックが会場を別にして同時進行でスタートしました。

一橋講堂では歯科衛生士セッションが中川寛一先生，小塚昌宏先生をコーディネーターにお迎えし、おこなわれました。



歯科衛生士セッションのコーディネーターの中川先生と小塚先生

「歯科衛生士のためのマイクロスコープ ホップ・ステップ・ジャンプ」をテーマに，ホップを安田奈央（熊本県勤務），ステップを小山友見（日本大学松戸歯学部附属病院勤務），ジャンプを前田千絵（東京都勤務）の3人の衛生士さんに発表していただきました。歯科衛生士が顕微鏡を使える環境はまだまだ整っておらず、120人を超える参加者が集まり、関心の高さをうかがい知ることができました。



歯科衛生士セッションの演者
左から前田さん、小山さん、安田さん



歯科衛生セッションの感謝状授与

別会場では 6 人の先生がテーブルクリニックを行い、実技を交えて熱心に語られ、各会場とも演者のテクニックを一目見ようと多くの参加者が集まり、会場からあふれ出すほどの大盛況ぶりでした。



多くの参加者を集めたテーブルクリニック

その後、一橋講堂で一般演題発表が 10 題行われ、明日からの診療に生かそうと活発な質疑応答が繰り広げられました。



活発な質疑応答が繰り広げられた一般演題

ランチョンセミナーは、吉見英広先生（タカラベルモント株式会社，名南歯科貿易株式会社共催）の「マイクロスコープと出会って」、高田光彦先生（ニッシンジャパン株式会社主催）の「マイクロ動画の前に！説得力のある口腔内写真を撮ろう！」、飯久保正弘先生（朝日レントゲン工業株式会社提供）の「歯根破折の画像診断 - 各種画像診断法の検出精度について - 」の3演題が行われました。各会場とも定員以上の方が集まり、それぞれの演者の熱弁に、参加者は頭もお腹も満足のご様子でした。しかし、残念ながら会場の広さの関係で席に限りがあり、お弁当を召し上がれずに立って受講された参加者には深くお詫びいたします。申し訳ありませんでした。



座りきれないほどの参加者を集めたランチョンセミナー

シンポジウム2は「顕微鏡歯科治療 記録とプレゼンの最前線」をテーマに日本歯科大学新潟病院菅原佳広講師のオーガナイズのもとに、武井則之先生に静止画について，三橋 純先生に動画について講演いただきました。会場からは映像技術の進歩に感嘆の声があがっていました。



シンポジウム2コーディネーターの菅原佳広先生



シンポジストの武井則之先生



シンポジストの三橋 純先生

閉会式では、第 10 回学術大会 大会長賞が「マイクロスコープ・ポジショニングの重要性について」の演題でテーブルクリニックを行った佐藤祐紀博先生に賞状と記念品が会場からの大きな拍手と共に手渡されました。



佐藤祐紀博先生に大会長賞の授与

感動の表彰式のあと第 11 回学術大会の実行委員である中川寛一理事より、次回大会の進捗状況報告があり、二日間に渡り開催された本大会は終了しました。



中川寛一理事による閉会宣言

2 日間の貴重な講演は、顕微鏡を用いた歯科医療の先端を進む歯科医師、まだ顕微鏡を導入していない先生方にとっても歯科治療の原点は何であるかを見直すとともに、診査診断について再考察し、最新の技術を取り入れることにより新たな顕微鏡歯科の一頁が開かれたことと思います。